

経営会議の内容

件 名	第２期大和市スポーツ推進計画について
所 管 部	文化スポーツ部
日時・場所	平成３０年１１月２１日（水）１４：３５ ～ １５：０５ 政策会議室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり計画部長、都市施設部長、消防長、教育部長、議会事務局長、スポーツ課長
提 出 理 由	第２期大和市スポーツ推進計画を策定するにあたり、その内容について了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 ・計画の中で、緑野青空子ども広場を活用した遊びの創出が掲げられているが、これは、現在当該地で行っている協働事業を活用するということか、それとも、単に場所を活用するということか。 （所管部）単に場所を活用するという意味である。 ・基本目標１の施策として、女子小中学生にスポットを当てた取り組みが記載されているが、「女子」をあえてつけている意味を教えてください。 （所管部）国の調査結果などによると、女子の運動能力の低下がみられると分かったため、今回の計画で新たにスポットを当てた。 ・スポーツセンターの第１体育室にトップリーグの公式試合を誘致してほしいという希望をきいたことがあるが、対応は可能なのか。 （所管部）例えば、バスケットのトップリーグであるＢリーグは、客席数の関係で公式戦を誘致することができない状況である。ただ、トップリーグ誘致のために施設を改修するということは考えておらず、既存施設で誘致ができる範囲で対応していきたいと考えている。 ・三重県内の自治体では、地域で行われる体操をキーに、介護予防や人と人との交流にもつながる取り組みが行われている。こうした事例も「つながる」スポーツの参考にしてみてもどうかと思う。 （所管部）「つながる」スポーツは、人と人との交流、世代間の交流なども踏まえた基本目標となっており、紹介のあった事例などにも柔軟に取り組んでいきたいと思う。また、健康都市の実現にスポーツは欠かせないものとなるので、計画がしっかりと推進できるよう、各部かいにも協力をいただきたい。 ・前計画の成果指標として「スポーツを定期的に行う市民の割合」が低下している。一方で、今回の計画では、新たな指標として「スポーツを行わない人の割合」が掲げられており、目標値は０％となっている。目標設定の考え方を教えてください。 （所管部）「スポーツを定期的に行う市民の割合」について、中間評価年度まではスポーツセンターなどに来ていた方を対象とした調査結果であるのに対し、最終年度は無作為抽出による調査結果となっている。より市民の現状に近い数値となっているが、その分、実績値が下がってしまった。 「スポーツを行わない人の割合」の目標値については、国が基本計画で掲げている数値を大和市でも目指すこととして設定した。 ・「公共スポーツ施設の平均利用者数」については、５年間で８０名程度の増加が目標値になっているが、控え目すぎるように感じる。

	(所管部) こちらの目標は、これまでの実績数値をベースに設定している目標であり、今後も継続的に利用者を増やしていく考えで設定している。 ・本計画において、e スポーツはどのように整理しているか。 (所管部) e スポーツを本市のスポーツ推進計画の対象とするかについては、国の更なる議論が必要であり、今後の国の動向を注視しながら、次回の計画での反映について検討していきたいと考えており、今回の計画には対象としていない。 ・学校教育の視点では、幅広く体を動かすということが何より重要であると考えている。そうしたことが、計画の中にも記載されており、嬉しく感じている。 ・ホームタウンチームである大和シルフィードについて、防犯キャンペーンや納税PR、明るい選挙PRなど、様々な場所で活用してもらっているが、市の事業のPRにもっと活用していきたいと考えている。また、横浜Fマリノスも同様である。 (所管部) ホームタウンチームを活用することは、チーム自体のPRはもとより、大和市のPRにもつながるものである。各部においても積極的に活用してほしい。 ・健康を維持していくうえで、スポーツは欠かすことができない。このため、スポーツと健康分野の連携を「つながる」スポーツとして体系化したことは、高く評価できると感じている。 ・計画の中で、市が主体とならない事業なども記載されている。市民が見たときにわかりやすい表示に工夫すること。
会議結果	案の通り進めていく。